

暫く本「折々の記」も筆を置いていたが、最近幾つか気になる事があったので、止むを得ず筆を執った次第である。

① 連鎖の鎖を断て！

新潟県中越地震に日本国民が関心を持ち、一日も早い余震の収束と応急復旧と被災者支援を望んでいる最中に、遠く中東において、またしても日本人を拉致してサマワの自衛隊の撤収を要求するという卑劣極まりない事件が起きた。政府はテロリストとは交渉しない、自衛隊を撤収させる事はしないという決断をしたが、当然の事である。

今年の4月7日に起きた2名の無謀な若者の無責任な行動に国内から非難轟々の嵐が起きたが、そのことなど、とっくに忘れてしまったかの如き、今回の青年の軽率な行動に一遍の同情すら起きないと言えれば怒られるだろうか。最も彼はある程度覚悟の上での行動であったのか殊勝に振る舞ってはいるが、動機が正しければ、全てが許される、理想主義や人道主義に基づく独りよがりの目的の正しさが免罪符になり得るといふ悪しき論理は捨てるべきである。彼が如何なる目的でイラクに入国したかは不明だが。

個人の自己責任という問題もあるが、テロリストの要求に屈した某国の行為にかかるイラクからの軍隊撤退を要求する為の拉致・誘拐の連鎖になったのだ。彼の国の国際政治上における責任は極めて重大である。テロリストの跳梁跋扈をこれ以上許す訳には行かない。テロリストに人質を拉致しての要求に応ずる国など存在しない、無駄なことだと認識させねばならない。また、日本が、国際連帯の弱い鎖であると侮られた事に我らは怒るべきである。日本には健全な常識が存在していることを再確認させねばならない。

9. 11以降世界がテロとの戦いという正に未知の世界に突入した。テロを根絶する為の最高の戦略は、世界がテロリストには屈しないという強い信念で連帯する事である。某国に猛省を促さずには居れない。彼の国が何を為すか、注視したい。

そして日本国民も毅然としてテロに対決する意思を明確にし、自ら為し得る事は為すべきである。

彼の無事の解放を願う。その面での政府の懸命の対応を期待したい。

② 百年兵を養うことの意味を！

新たな防衛計画の大綱の策定に向けた動きが急である。焦点は陸自の装備や定員の削減のようだ。某新聞には陸自をもっと減らすべきだとの元幹部自衛官の主張が意図的に掲載された。マスコミの伝えるところでは、財政当局と防衛庁の主張にも大きな隔たりがあるようだ。

何れにしろ、始めに削減ありき、防衛も聖域ではないとの論理を是とすべきか。否である。防衛というのは先ず何に対して如何に防衛するか、その為の所要防衛力を算定すべきものである。しかる後、仮に財政やその他の状況により止むを得ず、それを満足し得ない場合にはそれをリスクとして認識すべきものだ。発想が逆である。

勿論、防衛力整備の優先順位は種々議論があり、リスクが極めて大なるTMDに対処する事は喫緊事ではあろう。が、考えるべきは、TMDのみではない。テロやゲリラにも日本は極めて脆弱である。その脅威に対抗するには北朝鮮の特殊潜航艇侵入事案への韓国軍の対応を見ても相当の陸上戦力を必要とする。また、軍、武力集団の戦力と言うのは、その造成には多大な時日を要するという事実も忘れてはならない。まして、我が自衛隊が、戦わざるを得ないかもしれない敵は世界最高水準の特殊部隊である。一朝一

夕に精強な部隊を練成できるものではない。

古来より、『百年兵を養うは、一朝これを用いんが為也』と言うではないか。慌てて国家の根幹を成す基本的計画を策定せずとも良い、国家百年の大計を損なってはならない。拙速に過ぎはしないだろうか。もっと本質的なところから議論して貰いたいものだ。

(了)